

<No13 : 地形測量>

次の文は、公共測量における地形測量のうち、現地測量について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 現地測量は、4級基準点、簡易水準点又はこれと何等以上の精度を有する基準点に基づいて実施するものとする。
2. 現地測量により作成する数値地形図データの地図情報レベルは、原則として1000以下とし250、500及び1000を標準とする。
3. 細部測量において、現地でデータ取得だけを行い、その後取り込んだデータコレクタ内のデータを図形編集装置に入力し、図形処理を行う方式をオフライン方式という。
4. 数値編集における編集済データの論理的矛盾の点検は、目視点検により行い、点検プログラムは使用してはならない。
5. 補備測量では、編集作業で生じた疑問事項及び重要な表現事項、編集困難な事項、現地調査以降に生じた変化に関する事項、境界及び注記、地物の表現の誤り及び脱落を現地において確認及び補備する。

<No14 : 地形測量>

次の a ~ c の文は、公共測量における地形測量のうち、GNSS 測量機を用いた細部測量について述べたものである。[ア] ~ [オ] に入る語句の組合せとして最も適当なものはどれか。次の中から選べ。

- a. キネマティック又は RTK 法による TS 点の設置は、[ア] により行い、観測は干渉測位方式により 2 セット行うものとする。1 セット目の観測値を [イ] とし、観測終了後に再初期化をして、2 セット目の観測を行い、2 セット目を [ウ] とする。
- b. キネマティック法又は RTK 法による TS 点の設置で、GPS 衛星のみで観測を行う場合、使用する衛星数は [エ] 衛星以上とし、セット内の観測回数は FIX 解を得てから 10 エポック以上を標準とする。
- c. ネットワーク型 RTK 法による TS 点の設置は、間接観測法又は [オ] により行う。

	ア	イ	ウ	エ	オ
1.	放射法	参考値	採用値	5	直接観測法
2.	放射法	採用値	点検値	4	直接観測法
3.	交互法	参考値	採用値	4	直接観測法
4.	交互法	採用値	点検値	5	単点観測法
5.	放射法	採用値	点検値	5	単点観測法

<No15 : 地形測量>

トータルステーションを用いた縮尺 1/1,000 の地形図作成において、傾斜が一定な直線道路にある点Aの標高を測定したところ 81.6m であった。一方、同じ直線道路上の点Bの標高は 77.6m であり、点Aから点Bの水平距離は 60mであった。

このとき、点Aから点Bを結ぶ直線道路とこれを横断する標高 80m の等高線との交点は、地形図上で点Aから何 cm の地点か。最も近いものを次の中から選べ。

1. 1.2 cm
2. 2.4 cm
3. 3.6 cm
4. 4.8 cm
5. 6.0 cm